

AMDA ダイジェスト

発行：2000年12月
 発行元：〒701-1202 岡山市櫛津 310-1
 AMDA (アムダ)
 TEL086-284-8104 FAX086-284-8959
 E-mail：member@amda.or.jp
 編集：AMDA 会員情報局
 Internet：http://www.amda.or.jp

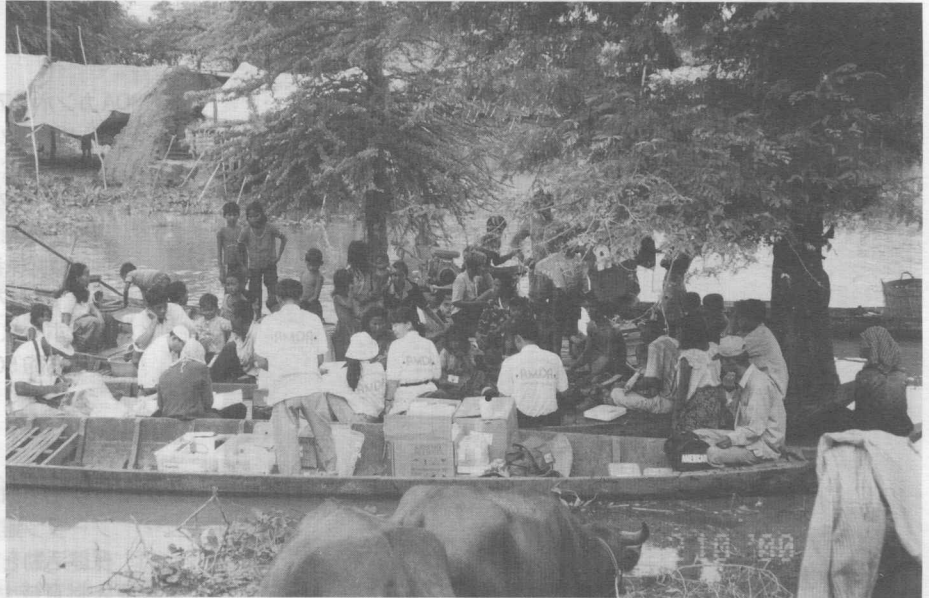
緊急救援活動

カンボジア メコン川大洪水緊急救援

(AMDA Journal 2000.11 緊急救援報告より抜粋)

AMDAカンボジア支部より、「メコン川流域に降り続いた集中豪雨による被害は9月26日現在、被災者160万人、35万世帯が家を失ない、死者180名に達した。現地では食料の不足とコレラ・デング熱の蔓延が懸念される」との情報が届きました。

その情報を受けて9月28日、AMDAは多国籍緊急救援医療チームをカンボジアに派遣しました。



AMDA 多国籍緊急医療チームのボートによる巡回診療

緊急救援活動報告

緊急救援医療チーム

■ 9月28日、日本より上田明彦医師が、ミャンマーより山本より看護婦・大森佳世調整員がバンコクにて、合流。

■ 9月29日、プノンペンに到着。AMDAカンボジア支部代表で今回の緊急救援リーダーである Sieng Rithy 医師 他11名のカンボジアチームと合流。ミャンマーで調達した薬品・医療器材を提供、現地の状況説明を受ける。

9月20日の時点でカンボジア国内で被害状況がひどい地域は、Kandal 県(死者41名、約42万7800人に被害、6万9500人が避難)、Prey Veng 県(死者26名、約41万7500人に被害、1万6400人が避難)、Kampong Cham 県(死者44名、約27万5300人に被害)などであったとのこと。

協議の上、AMDA緊急救援医療チームは10月2日～4日までプノンペンのAMDAカンボジア事務所を拠点にKandal(カンダール)県で、5日～9日までは幹線である国道1号線が遮断され「陸の孤島」となったPrey Veng(プレイベン)県でボートによる巡回診療等の医療活動を展開することとした。同時に、2日から始まる巡回診療の準備をしたり、被災者に巡回診療予定を広報した。

■ 10月2日～4日

一帯を管轄するカンダール県ボグリユリュ地区の保健担当官の情報に基づき診療場所を決定。ライフジャケットを纏ってボートで向かう。村の土地のほとんどは水面下となり、かろうじて残った土地にも藪めき合うように牛や豚がいた。村人が診察を受けるためにボートで集まって来る。診察できる土地もないため、ボートの上で診察を行うこととなった。薬を受け取った村人はまたボートで戻って行った。

国道沿いの避難民を対象に寺院の庭を借りて診察。両側が浸水

し、かろうじて堤防の役割を果たしている国道と、あたりよりやや高い場所に建立されているバゴダだけが、唯一生活できる場所となっている。片側1車線の道路の路肩には1～2メートル四方の竹の骨組みに粗末なビニールシートを掛けただけの小さな仮の住居がズラリと並び、ここでも人間だけでなく家畜も避難しているので非常に混雑した状態である。人々の疲労は極限に達している。

不衛生な環境下、飲み水の不足などにより、被災者には下痢、上気道炎、中耳炎、疥癬などの皮膚病、目の病気の他、精神的疾患も多く見られた。

■ 10月5日～9日

陸の孤島となったプレイベン県へ。プレイベンのホテルを拠点に孤立した村々へボートでの巡回診療を開始する。

ボートを接岸する場所もなく家と家の隙間にボートを寄せての診察となった村、ボートで2時間以上かかる救援の遅れている村、さらには高床の家で水上生活を余儀なくさせられている村等を巡回。いずれの村でもまたたく間に患者が小舟で集まってきた。呼吸器感染症や寄生虫、下痢、皮膚疾患、精神的疾患など当然多いが、し尿はそのまま川に流し、沐浴や飲料水もまた同じ川の水を使うにもかかわらず教育あるいは経済上の問題から煮沸することなく飲んでしまう人が多く、指導の必要を痛感した。

■ 10月10日、日本・ミャンマーチームは各々帰国。その後カンボジアチームが救援活動を継続中。

募金のお願い

AMDAではアジア・アフリカ・中南米において医療活動等を行うため、皆様のご支援をお願いしています。

郵便振替 □座番号01250-2-40709

□座名 AMDA

*特定のプロジェクトをご支援下さる場合は、通信欄に明記してください。

AMDAのプロジェクト

★アジア

— インド —

- * アクルベータ薬草園プロジェクト
インド中部マハラシュトラ州郊外にて現地の伝統医療（アクルベータ）に必要な薬用植物の栽培に着手。

— カンボジア —

- * AMDAカンボジアクリニックプロジェクト/巡回診療プロジェクト
プノンペン市内での診療及び小手術可能な巡回車輻での無医村における障害者への無料巡回診療実施。
- * タケオ州アングローカル行政区保健衛生プロジェクト
アジア開発銀行と協力し、保健衛生システム確立のため現地医療関係者のトレーニングや医療施設での技術指導を実施。
- * デイケアセンタープロジェクト
コンボンスプー州にて国内避難民や貧困者の3才～6才の子ども約50人を対象に識字教育や栄養給食を実施。

— ネパール —

- * ダマック市AMDA病院プロジェクト
ブータン難民（無料診療）及び周辺地域住民を対象に医療保健活動を実施。
- * 医療人材育成センタープロジェクト
病院付属の施設・スタッフを中心に医療従事者養成学校を運営。
- * エイズ予防プロジェクト
エイズ・性的感染症に関する教育、広報活動を実施。
- * AMDAネパール子ども病院プロジェクト
プトワール市にて子どもと女性のための病院を運営。小児科、産科、産婦人科診療を実施。

— バングラデシュ —

- * 無料診療所プロジェクト/ボートによる巡回診療プロジェクト
ガザリア・ターナ地域における無料診療や保健衛生教育を実施さらに外来診療、簡易病理検査、外科、産婦人科が可能な中型ボートによる巡回診療を実施。
- * AMDAトレーニングセンタープロジェクト (ACT)
世界各地で実施する救援活動や地域開発の専門家を育成。主に生活環境改善を目的とした小規模貸付による収入向上プログラムを実施、指導。

— ミャンマー —

- * ミャンマー子ども病院プロジェクト
メツティーラの市民病院に小児病棟を併設、運営。技術向上のためスタッフの日本・ミャンマー間交換研修実施。
- * AMDA診療プロジェクト
AMDA診療所における診療及び無医村地域への巡回による無料診療、栄養給食、保健衛生教育と小規模貸付を実施。
- * 医療専門家育成プロジェクト (ACT)
伝統医の育成、基礎保健教育のための小規模貸付専門家の育成を目的に人材育成センターの建設、日緬中交換研修。
- * 防災学校/教育普及プロジェクト
チャパタウン地区に防災学校を建設。防災設備供給、防災訓練プログラム実施。メツティーラにて僧院学校建設。家具供給。
- * 浄水供給プロジェクト
メツティーラに浄水機を設置。パコックに井戸を建設。保健衛生改善の目的で水教育を実施。日本での技術者の招聘研修。



インド 保健衛生：薬草園プロジェクト



バングラデシュ 人材育成・自立支援：ACT収入向上プログラム



ミャンマー 医療：地域医療向上プロジェクト

★アフリカ

— アンゴラ —

*** 国内避難民救援プロジェクト**

UNHCRの協力のもと、北部ザイーレ州のムハンザ・コンゴの州立病院において、診療、栄養・予防接種各プログラム及び現地医療スタッフのトレーニングを実施。

— ケニア —

*** ABCプロジェクト**

ナイロビ近郊スラム（キベラ地区）の女性対象に職業訓練、衛生教育、自立のための小規模貸付を実施。

*** HIVプロジェクト**

ケニア西部のニャンザ県にて青年海外協力隊の協力のもとエイズ教育を実施。

— ザンビア —

*** PHCプロジェクト**

首都ルサカでプライマリーヘルスケアプロジェクトをJICAと共同で調査、実施。

*** ABCプロジェクト**

ルサカ近郊スラム（ジョージコンパウンド、パウレニコンパウンド）の女性対象に職業訓練、衛生教育、自立のための小規模貸付を実施。

*** コミュニティー農園プロジェクト**

ジョージコンパウンドの女性が中心となって住民の栄養改善及び女性の自立のために3 haの農園を開墾。

— ジブチ —

*** ソマリア難民救援医療プロジェクト**

ソマリア難民キャンプ（アリアデ、ホルホル）で医療活動実施。

*** エリトリア難民救援医療プロジェクト**

北部オボック地方において戦争から逃れてきたエリトリア難民への救援活動実施。

*** 産婦人科病院人材育成プロジェクト**

ジブチ市内の機能していなかった産婦人科病院を復興、診療、さらに助産婦のトレーニングを実施。

— ルワンダ —

*** ABCプロジェクト**

キガリ近郊の女性を対象に職業訓練、衛生教育、自立のための小規模貸付を実施。

※ ABC (AMDA Bank Complex) プロジェクトとは

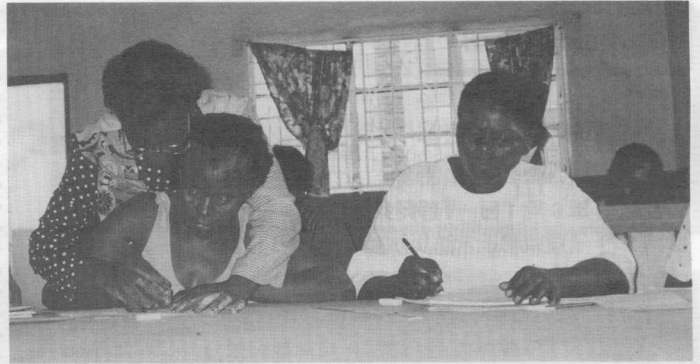
目的… 貧困層への生活向上及び自立支援
内容… 保健衛生教育・職業訓練・小規模貸付を組み合わせた総合的事業

★ヨーロッパ

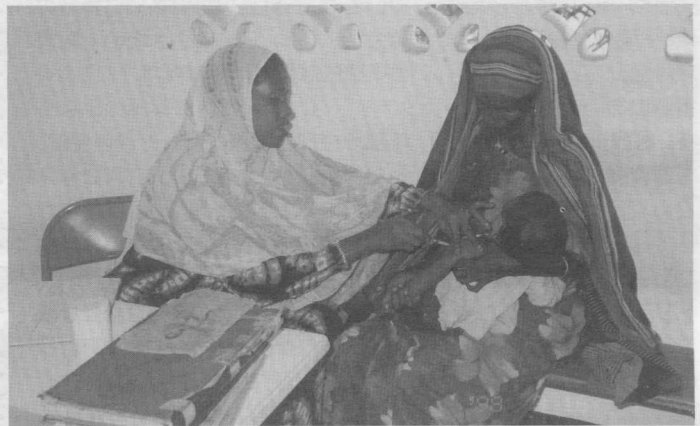
— コソボ自治州 —

*** 診療所再建・診療プロジェクト**

コソボ帰還難民と被災民及び地域住民のための医療支援活動を実施。診療所再建、医療備品・薬品の援助を主とする。



ザンビア 自立支援：ABCプロジェクト（識字教育）



ジブチ 医療：ソマリア難民救援プロジェクト（アリアデキャンプ）

★中南米

— ボリビア —

*** 上級救急救命技能研修プログラム**

救急救命技能研修により、ボリビア人のインストラクター、有資格医師の養成、及び被訓練医師の全国展開を目指す。

— ホンジュラス —

*** HIVプロジェクト**

青少年を対象としたエイズ予防教育を実施。

*** 衛生教育セミナープロジェクト**

首都テグシガルバ周辺スラム（ラモン・アマヤ・アマドール）において衛生教育セミナーを実施、ヘルスポランテアを養成。住民とのミーティングで問題となった排水溝を建設中。



ホンジュラス
保健衛生：衛生教育セミナープロジェクト

防災訓練活動



静岡県及び東京都 防災訓練参加報告

平成12年9月1日「静岡県西浜名湖総合防災訓練2000」
9月3日「東京都総合防災訓練“ビッグレスキュー東京2000”」

今年もAMDAは地域防災民間緊急医療ネットワークとして、静岡県及び東京都の防災訓練へ参加した。静岡県は1998年以来3回目、東京都は1996年以来5年目の参加となった。

今回、東京都の防災訓練については、一旦立川防災基地に集合の後、民間ヘリコプターにて訓練会場へ移動、これに引き続いて医療救護活動訓練を行なう、という実践的な型で訓練が実施された。災害時においては、医療ボランティアは、医療行為の実施のみならず、医療チームの移動手段、本部その他の関係機関との通信手段、医療資器材・生活物資の補給路の確保といった点について常に考えておくことが必要となる。AMDAとしても海外支援の経験を生かして、国内災害時においては、特に後方支援についてのより具体的な計画を立案すべきであろう。そして医療ボランティアにとって、トリアージをはじめとする災害医療に関する知識の修得は必要事項である。こうした訓練への参加のみならず、医療ボランティア自身の技量の向上を目的とする研修が今後必要であろう。

手稲溪仁会病院救急部 早川達也

AMDA 国際医療情報センターのご案内

在日外国人が日本人と変わらぬ医療を受けられるよう、電話で医療情報提供を行っています。

ホームページ: <http://www.osk.3web.ne.jp/~amdack/>

- センター東京 TEL 03-5285-8088
英語・中国語・スペイン語・韓国語・タイ語 (月～金曜日 9:00～17:00)
ポルトガル語 (月、水、金曜日 9:00～17:00)
フィリピン語 (水曜日 9:00～13:00)
ベルシャ語 (月曜日 9:00～13:00)
- センター関西 TEL 06-6636-2333
英語・スペイン語 (月～金曜日 9:00～17:00)
ポルトガル語/中国語 (曜日により対応可。事前にお問い合わせください。)

NGO 相談員

外務省が創設した「NGO相談員制度」は、わが国のNGO活動の第一線で活動する経験と専門性が豊かなNGO団体が「相談員」となってNGO活動に関する様々な相談・照会事項に対し、適切な回答・アドバイスを行うシステムです。(相談料は無料)

「NGO相談員」自体に関するお問い合わせ: 財団法人国際協力推進協会「NGO活動環境整備支援事業事務局」TEL 03-5423-0571

AMDA NGO 相談員 (岡安利治・鈴木剛史) より

NGOへの関心が高まる昨今、溢れるような情報がマスコミ等を通じて流れているものの、いざ行動に移そうとする際は戸惑う方が多いようです。今までにも、学生、社会人、医師、看護婦など様々な分野の方々から、海外ボランティア活動の方法から団体運営にいたるまで幅広い相談を受けてきました。AMDA創設以来16年間に蓄積されたノウハウがお役に立てると思っております。お気軽に電話、FAX、電子メール等でご相談ください。

AMDA 高校生会ホームページ開設!

<http://www.amda.or.jp/highschool/index.htm>

5月くらいから作ろうと話していたホームページ。目標は8月中に完成させ、9月1日に開設すること。

しかしいざ始めてみると困難なことばかりでした。ボランティアで来てくださる中学校の技術の赤木先生にアドバイスを受けながら、夏休み中はAMDAでパソコンとにらめっこの日々でした。皆さんに見てもらうためにはどのような文章・タイトルが良いのかなど、考えなければならぬことは山程ありましたが、ようやく今のカタチにたどり着くことができました。9月1日にホームページが開設できた達成感が、困難を楽しかったという思いにしてくれました。これからも頑張ってお更新していこうと計画をたてています。

この今のホームページがどのように変わっていくか見てみてください。

AMDA 高校生会 三宅ちか子

AMDA 会員及び関係者の皆様へ

平素よりAMDAの国際公益事業に対し、ご支援を賜り幸甚に存じます。

現在、AMDAは2001年からの特定非営利活動法人としての法人運営を実現すべくその移行期の状況にあります。これはあくまで日本における国内法人の制度であり、多国籍医師団を中心とするAMDAはLocal Initiative (現地主導型) の尊重をモットーとしているため、日本的な理屈だけでは海外チャプターからのコンセンサスは得られにくい場面もあるのが現状です。

また、これまでのボランティアにウエイトを置いた従来の事業と併せて、国際協力の民間専門機関として、国内外の各機関の委託事業を積極的に受注し、より専門性の高い事業分野に進出を図り、事業基盤の安定の確立につなげたいと努力を続けております。当該分野には、範とすべき国内団体もなく、まさにAMDAがその先駆けとなると、日本政府をはじめ世界銀行等のご指導ご協力のもと組織整備に精進しております。

AMDAグループ

- ・アムダ インターナショナル (緊急救援、海外の地域保健医療活動等)
- ・AMDA国際医療情報センター (在日外国人への保健医療情報の提供及び相談等)
- ・アムダ国際福祉事業団 (国際理解教育への参画、国際福祉ボランティアの養成事業等)
- ・アムダ国内防災機構 (仮称) (国内防災活動及び災害救援活動)

従来のAMDAをその事業分野別に3つの特定非営利活動法人に分掌し、既に独立した組織としてスタートしているAMDA国際医療情報センターを含むこれら4法人をもってAMDAグループとする。このグループ内の協議については、必要に応じて4法人の代表者により討議される。

会員また関係者の皆様には、2001年国際ボランティア年における、今後共AMDAへのご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

AMDA 代表理事 菅波 茂